



「休んでいますか？」

マタイによる福音書12章1～8節

日本同盟基教団 長良キリスト教会 牧師 沖野 毅

私は岐阜市の教会で牧師をしています。牧師になる前は高校で働いていました。その頃、仲の良かった同僚が、ぼそっとこんなことを言いました。「最近の日曜日でも学校に来て仕事してるんだ。日曜日は人も来ないし、電話もかかってこない。休日出勤の手当も出る。だから日曜の方が仕事がかどるんだよ。」その同僚は毎週のように休日出勤をしていました。毎週の決まった休みはほぼないみたいでした。すごいなあ、自分にはとてもこんな働き方はできないと思いました。

みなさんの休みの日は何曜日ですか。日曜日ですか。もしかすると、学校は休みでも、日曜日は一日バイトがあるかもしれません。学校もバイトもない、そんな休みの日は、ありますか。

今のカレンダーでは、日曜日の部分が休みの日として赤くなっていますが、日本で日曜日が週に一度の休みになったのは明治になってからであるそうです。昔の日本は、週に一度休むという習慣はなかったと聞きます。

聖書は、神様がこの世界を造られたときから、週に一度の休みの日はあったと語っています。休みの日のことを聖書では、安息日といいます。

安息日というのは神が人間にくださった休みの日のことです。神がこの世界を造られたとき、最後になさったことは、休むことでした。完成したこの世界を見て、神は七日目に休まれました。六日働いて、一日休む。これが神が造られた世界のリズムでした。

神が休まれたから、私たち人間も休む。これが安息日、休みの日の始まりです。神が休まれた。だから人も休むようと、神は安息日を定められました。

では、休むってどういうことでしょうか。

あるとき、イエスは弟子たちと旅をしていました。お腹が減ってきたとき、弟子たちはそこにあった麦畑で麦の穂を摘んで食べ始めました。すると、それを見ていた人たちがいました。宗教熱心なファリサイ派の人たちです。彼らはイエスに向かって文句を言い始めました。＜あなたの弟子たちは、安息日に、してはならないことをしている＞ 何が問題となっているのか。ファリサイ派の

人たちは、弟子たちが麦の穂を摘んで食べたことは、安息日に麦の収穫という労働をしているのと同じことだと考えたのです。なんだか屁理屈のようですが、彼らは大まじめです。

このファリサイ派というのは、一所懸命自分の力で聖書の言葉を守ろうとした人たちです。彼らは安息日をどうやったら守ることができるかと考えました。

どうやったらちゃんと休んだことになるのか。これは働いていることになるのか、ならないのか。彼らは安息日をずいぶん窮屈な日にしてしまっていたようです。

イエスは彼らにどう答えたでしょうか。イエスはここで旧約聖書の時代のダビデ王のことを話されました。ダビデは王になる前、当時の王様であったサウル王から逃げるために何人かの人と旅をしていました。でも、食べるものがありませんでした。ダビデは神の働きをする祭司のところに行って、食べる者を分けてほしいと頼みます。祭司は、安息日に神様にささげる特別なパンを、ダビデたちにわけてくれました。ダビデもいっしょにいた人も、その神様にささげるパンを食べたんです。

弟子たちが麦の穂をつんで食べたこともこれと似ています。麦の穂を摘んで食べることは、労働ではありません。神のあわれみによって許されていたことです。旧約聖書のレビ記では、畑の隅の方は貧しい人のために残しておかなければならない、と書いてあります。空腹の人は、誰でも畑の隅の方は食べてもいいことになっていました。これが神の心です。

またイエスはこうもいわれました。「安息日に神殿にいる祭司は、安息日の掟を破っても罪にならないと律法にあるのを読んだことがないのか」祭司たちは安息日に、神殿で神の働きをしていました。祭司を見て、安息日に働いているからだめだとは誰も思いませんでした。

イエスを批判するファリサイ派の人たちは、たしかに安息日に、仕事はしていなかったかもしれませんが、でも、心がちっとも休んでいませんでした。彼らの姿からわかることがあります。それは、私たち人間は、休むとは何なのかがことが本当はわかっていないのかもしれないということです。

これは私自身の姿でもあります。身体は休んでいるつもりでも、心が休んでいないことがあります。では、どうすれば、人は休むことができるのでしょうか。

仕事を休んでも心が休まらない。それがファリサイ派の人たちの姿でした。彼らにとっては、決まりを守ることが休むことのかわりになっていました。

決まりを守れば、神から認めてもらえる。人から評価される。自分たちの地位が守られると彼らは考えていました。これは完全に仕事モードですね。

学校で評価されること、仕事やアルバイトで成果を上げること、自分の力で何かを手に入れること、私たちはいつもこういうことを考えています。けれども、時にはそういう自分を休むことも必要です。

安息日とは、仕事を休むこと以上に、自分の力で何かを手に入れようとする自分、人から認められようとする自分、そういう自分を休むことなのかもしれません。

聖書は、休むことは人間から出たことではなく、神が人間のために与えた贈り物だと語ります。だから、神のもとで休むこと、神のもとで、自分の力で何かを手に入れようとして頑張る自分を休む必要があるのです。そうでなければ疲れ果ててしまう。

最後にイエスはこう言われました。「人の子は安息日の主です」イエスは、この世界のすべてのもの、そして私たち人間の心も身体もすべてを治める王としてこの世界に來られました。イエスは、わたしのもとで休みなさいと私たちを招いておられるのです。

私は教会の牧師をしています。昨日は年に一度の子ども祝福礼拝でした。小さい子どもも、若い人も、大人も、いっしょに礼拝しました。そうしなければならないからではありません。イエスが呼んでおられるからです。わたしのところに来なさい。牧師にとって日曜日は仕事の日です。でも同時に、休みの日でもあります。たましいが神のもとで休む日です。

みなさんは、休んでいますか。もうすぐクリスマスです。ぜひ近くの教会のクリスマス礼拝に行ってみてください。イエスは招いておられます。わたしのもとで休みなさい。わたしといっしょに生きていこう。そうイエスは招いておられるのです。

掲載元：[中部学院大学・中部学院大学短期大学部_チャペルアワー](#)